



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

3月号—No.358

2025.2.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【榛摺(はりずり)】榛(はん)の木で染めた渋い赤褐色。

榛の木(はんのき)は湿地帯に生育するカバノキ科ハンノキ属の落葉高木。榛の木による染色は万葉集にも詠まれているほど古くからあるもの。葉、樹皮、実といった用いる部位等により実際の色には幅があるが、色名では渋い赤褐色を指す。煮出した煎液を用いるようになる前は、染材をすり潰して布に包んだタンポのようなものを衣に摺りつける原始的な染色方法だったことからこの名前がある。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ堺セッション報告  
令和6年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式

財団からのお知らせ..... 5

2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト公開プレゼンテーション開催のお知らせ / 第25回「地域伝統芸能まつり」テレビ放送のお知らせ / 「特別寄稿 ビューポイント view point」No.18掲載について / ステージラボ茅野セッション開催のお知らせ / 令和6年度「地域創造セミナー」報告

今月の情報..... 7

地域通信

今月のレポート..... 12

富山県富山市 富山県美術館  
「まるごとTADこども美術館 マジカル手ヅクリーツアー」

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル 9F  
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060  
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

## ●ステージラボ堺セッション

# 大阪では初めてのステージラボをフェニーチェ堺で開催

### ステージラボ 堺セッション 報告

2025年2月4日～7日



#### 写真

左上：ホール入門コース「ダンスワークショップ&デモンストレーション」(講師：東野祥子)

右上：ホール入門コース「地域をフィールドに」(講師：辰巳雄基、山城大督)

左下：自主事業コース「音楽ワークショップ体験、音楽家として社会包摂活動を担う際に考えていること」(講師：古橋果林)

右下：公立ホール・劇場マネージャーコース「アーティストが“本当に”したいこと～他者にしか見えないニーズ、ケアマネジメント理論を通して～」(講師：ケアまねぶ[奥山理子、タカハシタカカーン]セイジ、松岡真弥、長津結一郎)

#### ●コースコーディネーター

##### ◎ホール入門コース

小倉由佳子(ロームシアター京都 事業課長、プログラムディレクター)

##### ◎自主事業コース

柿塚拓真(公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹補佐兼事業部長)

◎公立ホール・劇場マネージャーコース  
若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授)

#### ●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 児島・天野

Tel. 03-5573-4183

ステージラボ堺セッションが2月4日から7日までフェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)を会場に開館されました。フェニーチェ堺は、老朽化した堺市民会館の現地建て替えにより2019年に開館。今回のラボでは「ホール入門コース」「自主事業コース」「公立ホール・劇場マネージャーコース」の3コースが開講されました。

堺市は世界遺産である百舌鳥・古市古墳群を代表する日本最大の大仙古墳があり、中世には南蛮貿易で栄え、千利休を輩出した地域です。共通プログラムでは、同市が「堺茶の湯まちづくり条例」で振興している茶の湯の体験も行われました。

## ●心を開いて原点と向き合う ～ホール入門コース

ホール入門コースのコーディネーターは、ロームシアター京都の事業課長・プログラムディレクターの小倉由佳子さんです。ゼミでは小倉さんがこれまで出会ってきた柔軟な発想をもつキーパーソンから、公立ホールについて考える上で押さえておくべきポイントを学びました。

自分の身体と向き合い他者の身体と出会う東野祥子さんのコンテンポラリーダンスのワークショップ、市民と共にリサーチしながら新た

な発想と地域の魅力を引き出し、一緒にアウトプットを考える豊中市立文化芸術センターでの取り組み、「文化芸術の基本は人であり、文化芸術は極めて魅力的な自治の取り組みであり、わからないものについて話し合いを続けることが文化的な営み」という林立騎さん(那覇文化芸術劇場なはーと)の刺激的な講義、阪神・淡路大震災後の神戸新長田に誕生したDANCE BOXの横堀ふみさんが実践する地域の外国ルーツのコミュニティの人々との多文化共生事業など、原点と向き合うゼミが続きました。

小倉さんは、「これからの公立ホールは地域の人と向き合うことが重要になる。人が関わる表現はすべて“実演芸術”になりえるかもしれない。私は劇場の機能をもっと拡張していきたいと思っている。ひとりではできなくても、いろいろな人と対話し、協力してやればできる」とエールを送っていました。

## ●さまざまな実践から学ぶ～自主事業コース

自主事業コースのコーディネーターは、日本センチュリー交響楽団等を経て、九州交響楽団音楽主幹補佐兼事業部長を務める柿塚拓真さんです。柿塚さんが携わった事例から、社会包摂事業についてさまざまな視点で議論を重ねました。

なかでも受講生の興味を引いたのが、フェニーチェ堺の指定管理者である堺市文化振興財団の本部事業課が2021年に立ち上げた「こども食堂における芸術家派遣事業」についての講義です(ホール入門コースと合同)。堺市の補助を受けたこの事業では、こども食堂の居場所としての機能を高めることを目的に、同財団の登録アーティストを含むさまざまなアーティストを3カ所の食堂に年間4~5回派遣しています。

同財団事業課事業係長の常盤成紀さんは、「こども食堂は多世代の交流拠点になっており、いろいろな人が関われる。音楽のもっている本来的な楽しさが人間同士の関わり、地域との関わりを引き出す。イベントをやりに行くのではなく、その場で一緒に時間を過ごす、のびのびと居心地のいい場所になっていることが重要」と解説。音楽あそびで食堂のテーマソングをつくった事例などを紹介しました。

## ●対話とコミュニケーション ～公立ホール・劇場マネージャーコース

公立ホール・劇場マネージャーコースのコーディネーターはプロジェクト・コーディネーターで立教大学社会デザイン研究科特任教授の若林朋子さんです。若林さんは、「効率よく業務をこなすほどに周囲との対話が疎かになっていないでしょうか」と受講生に問いかけ、多様性や社会包摂など求められる対応が増え続ける昨今の公立ホール運営において重要な「対話とコミュニケーション」をテーマに掲げました。

石川県西田幾多郎記念哲学館副館長で立教大学教授の大熊玄さんに学ぶ「哲学対話」、地域と向き合いながら障害のある人がいるからこそできる「休む場、考える場、支える場、何かをやりたくなる場」として重度知的障害者の施設を運営する認定NPO法人クリエイティブサポートレッツの久保田翠さん、アーティストが1人では気づきにくいニーズを共に発掘するという新たな支援方法を研究・実践する「ケアまねぶ」など、多彩なカリキュラムとなりました。

哲学対話では、「ひとつのテーマ(問い)を全員で共有する」「問いはそのまま問いとして扱う

「攻撃しない。防御しない」などの哲学対話のマネーを学んだ後、童謡『うさぎとかめ』の歌詞を元に「なぜカメはウサギと競走を始めたのか?」という問いについてグループで話し合いました。

「売り言葉に買い言葉で喧嘩を買っただけ」「むこうのこやま」というのがどのぐらい遠いかわからない。カメのほうが長生きだから必ず勝つ」など、さまざまな見解が飛び交いました。大熊さんは、「ウサギとカメは価値観のすり合わせができていない。そもそもすり合わせる必要があるのか? そもそも〇〇とはどういうことか? それを問い、考え、対話することが哲学だと私は思っている」と受講生たちに伝えていました。

最終日の振り返りでは、「劇場はどうあるべきかと突き詰めていたが、そうではなくて、どうすればいいかをお客さんを含めてみんなで考えていけばいいと腑に落ちた」「知らず知らずのうちに社会に役に立たなければならないという呪縛があった。完璧を目指すのではなく、考え続けていきたい」と受講生たちのリフレッシュしたコメントが溢れていました。

## ステージラボ堺セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	開講式/オリエンテーション		
2月4日	イントロダクション「はじめまして」 小倉由佳子	「オリエンテーション」[日本センチュリー響等の取り組みについて] 柿塚拓真	「対話の始まり」 若林朋子
	全体交流会		
2月5日	「ダンスワークショップ&デモストレーション」東野祥子 「アーティストへのインタビューとグループディスカッション」東野祥子	「豊中市立文化芸術センター、とよなかARTSワゴンについて」 永福邦子	「哲学対話に学ぶコミュニケーションの環境づくり」 大熊玄
2月5日	「地域をフィールドに」 辰巳雄基、山城大督	「神戸市民文化振興財団のこどもコンサートと関連事業について」 柿塚拓真	「【表現未満】に学ぶ、開拓するコミュニケーション」久保田翠
	「グループディスカッション 本日のフィードバック」小倉由佳子	「音楽事業における公共性(神戸市民文化振興財団の事例等から)」 長谷川諒	「文化施設のコミュニケーションを考えるーみんなで哲学対話」 大熊玄、久保田翠、若林朋子
	共通プログラム「茶の湯でまちづくり&おもてなしWS」 宮本宗雅		
2月6日	「堺市文化振興財団の取り組みについて、こども食堂へのアーティスト派遣等」 常盤成紀	「那覇文化芸術劇場なはーとの目指すところ」林立騎	「アーティストが“本当に”したいこと～他者にしか見えないニーズ、ケアマネジメント理論を通して～」 ケアまねぶ
	「DANCE BOXの取り組み 劇場⇄地域」横堀ふみ	「堺市文化振興財団のこども食堂事業の評価について&事業評価についてのお悩み質疑応答」内山幸子	ラップアップ「3日間の振り返り」 修了式
	「グループディスカッション これからの公立ホール」林立騎、横堀ふみ、小倉由佳子、(若林朋子)	「ディスカッション」 中脇健児	
2月7日	「グループディスカッション、まとめ」 小倉由佳子	「ゼミ4日間の振り返り」 柿塚拓真	
	修了式		

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

### 令和6年度 地域創造大賞 (総務大臣賞) 表彰式



左：須藤明裕総務省大臣官房審議官による受賞施設への表彰状・楯の授与／右：受賞施設関係者、審査委員との記念撮影

令和6年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の表彰式が1月17日、グランドアーク半蔵門(東京都千代田区)で行われました。この賞は、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに143施設が表彰されました。

21回目となる今年度は全国から5施設の受賞が決定し、須藤明裕総務省大臣官房審議官のご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である地域創造の河内隆理事長の挨拶に続き、受賞施設の多彩な取り組みが紹介されました。須藤大臣官房審議官から表彰状・楯の授与に続き、「受賞された皆様の活動は、活力ある地域社会の実現に大きく寄与するものであり、今後とも、全国のモデルとして、地域の暮らしをより心豊かなものにする文化・芸術の振興に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます」と村上誠一郎総務大臣の祝辞が披露されました。

受賞施設を代表し、「地域とつながる美術館」として新境地を開拓したことが評価された黒部市美術館(富山県黒部市)の武隈義一市長より謝辞をいただきました。「黒部市美術館は今から30年前、1994年に黒部市制施行35周年を記念して、市内の篤志家が行った文化向上のための寄附を元に、『水と緑』をテーマとする黒部市総合公園内に建設されました。以来、自然と調和した静かな環境の中で、『小さくても光り輝く美術館』を目指して活動しています。地域にゆかりのある作家、地域で活躍して

いる作家の調査・研究に取り組んでいるほか、近年では地域全体を展示場としてとらえ、屋外での展示や近隣施設でのサテライト展示などを実施しています。(中略)今後も『住む人が輝き、人が人を呼び込むまち くらべ』の実現を目指し、取り組みを続けてまいります」と、今後への決意を込めた謝辞をいただきました。

地域創造大賞審査委員会の吉本光宏委員長からは、受賞5施設への講評をいただくとともに、「受賞施設の皆様をお願いしたいことが2つあります。まず、地元に戻って、地域創造大賞を受賞したことを大いに自慢、宣伝してほしい、ということです。総務大臣賞という価値のある賞を受賞したということに加えて、皆様の美術館や文化会館が地域になくはない存在だということ、一人でも多くの方々に理解してもらいたいと思うからです。そしてもうひとつの願いは、ぜひぜひ、現在の事業や運営を継続していただきたいということです。地方公共団体が設置、運営する公立文化施設を取り巻く環境は厳しさを増すばかりだと思います。しかし、超高齢化や少子化が進み、社会的な課題が複雑化し、地域の活力が失われつつある現代社会にあって、文化や芸術はますます地域になくはないものであることは間違いありません」と今後への期待が寄せられました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、日頃からそれらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げます。

#### ● 令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- 鶴岡市文化会館(荘銀タクト鶴岡) [山形県鶴岡市]
- 富山県美術館 [富山県]
- 黒部市美術館 [富山県黒部市]
- 岐阜県県民ふれあい会館 サラマンカホール [岐阜県]
- 神戸文化ホール [兵庫県神戸市]

#### ● 地域創造大賞審査委員会

(※委員長、委員長代理以下、五十音順)

- ◎ 委員長  
吉本光宏 [(同)文化コモンズ研究所 代表・研究統括]
- ◎ 委員長代理  
坪池栄子 [(株)文化科学研究所 編集プロデューサー]
- ◎ 委員  
河内隆 [(一財)地域創造 理事長]  
小林真理 [立教大学大学院人文社会系研究科 教授]  
仲道郁代 [ピアニスト]  
柳沢秀行 [(公財)大原芸術財団 シニアアドバイザー]  
若林朋子 [プロジェクト・コーディネーター / 立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授]

#### ● 地域創造大賞に関する問い合わせ

総務部 今野  
Tel. 03-5573-4066

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト公開プレゼンテーション開催

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」は、全国の公共ホール等との共催により、地域の皆様との交流を図る地域交流プログラムと本格的で親しみやすいホールコンサートを共同でつくり上げる事業です。この度、新しく当事業に登録が決まった5組のアーティストによる公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和7年度のおんかつ実施団体を対象に行うものですが、今後おんかつの実施を検討されている公共ホール職員など、当事業に関心のある方もご覧いただけます。

アーティストが地域交流プログラムやコンサートにどのように臨むのかを知ることができる絶好の機会です。ぜひご応募ください。

#### ◎おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程] 2025年4月22日(火) 15:00開演

[会場] トッパンホール

(東京都文京区水道1-3-3)

[出演] 2025・2026年度登録アーティスト

[内容] 各組25分程度のプレゼンテーション

[参加申し込み方法]

当財団ホームページの参加申込フォームよりお申し込みください

[https://www.jafra.or.jp/](https://www.jafra.or.jp/event-request/onkatsu_presen2025/)

event-request/onkatsu\_presen2025/

[募集期間] 2025年4月11日(金)まで

※定員に達し次第、申し込み終了。



#### 2025・2026年度 おんかつ 登録アーティスト



©Junichiro Matsuo  
みはらみさこ  
三原未紗子[ピアノ]



©Yukiko Shibuya  
すずき まい  
鈴木 舞[ヴァイオリン]



きたがき あや  
北垣 彩[チェロ]



やまざき たかし  
山崎由貴[ユーフォニアム]



おの てるひかる  
小野寺 光[バスバリトン]

### ●「第25回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

3月2日(日)にNHKホールで開催の「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「源(げん)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能7演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

#### ◎放送予定日

2025年3月29日(土) 15:30~17:00

NHK Eテレ「まつりの響き ~第25回地域伝統芸能まつり~」(放送から1週間、NHKプラスで見逃し配信あり)

### ●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.18 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

18回目となる今回は、劇団太陽族代表、劇作家・演出家で、当財団の事業にも長年携わって

ただいている岩崎正裕氏にご寄稿いただきました(3月初旬に掲載)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column18.html>

#### ◎問い合わせ

芸術環境部 和田  
Tel. 03-5573-4093



●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 日野・森永  
Tel. 03-5573-4076  
onkatsu@jafra.or.jp

●地域伝統芸能まつりに関する問い合わせ  
総務部 高野  
Tel. 03-5573-4056

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ茅野セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和7年度の前期セッションは、茅野市民館・茅野市美術館にて2コースで開催します。詳細や参加者募集は、次号(4月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### ◎ステージラボ茅野セッション概要

[日程] 2025年7月1日(火)～4日(金)

### ●令和6年度「地域創造セミナー」報告

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師を派遣する地域創造セミナー。令和6年度は秋田県、埼玉県、愛知県、徳島県の4県で実施しました。セミナーの実施報告として徳島県と愛知県の模様をご紹介します。

徳島県では、アーティストであり、Yamaide Art Office株式会社代表取締役/BEPPU PROJECT ファウンダーでもある山出淳也氏を講師に迎え、「地域の文化資源を活用した観光振興と地域活性化」をテーマにご講義いただきました。別府市での取り組みを例に挙げながら、アートを新たな魅力発見事業として位置づけ、アートを入り口とした地域課題解決の手法について紹介していただきました。セミナーには徳島県内市町の文化行政担当者等が参加し、今後の展開に向けて数多くのヒントを共有する時間となりました。

愛知県では、横浜市民ギャラリーあざみ野館長の杉崎栄介氏(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)を講師に迎え、「文化政策の広がり～アートやデザインを介した地域協働の推進」をテーマに、講義と参加者によるグループワークを実施し

[会場] 茅野市民館・茅野市美術館  
(長野県茅野市塚原1-1-1)

### ◎開講コース(予定)

#### 【ホール入門コース】

##### ●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

#### 【自主事業コース】

##### ●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

ました。アートやデザインなどの文化活動を介した連携・協働・共創の仕組みや手法、行政職員における地域のコーディネーターとしての役割等について示していただき、グループワークでは参加者同士の各自治体における課題や解決策などについて積極的に意見を交わすことができ、充実した時間となりました。

当事業では主催する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基にセミナーを行っています。来年度は4県での開催を予定しています。



山出淳也さんの講義(徳島県)

●ステージラボに関する問い合わせ  
芸術環境部 児島・天野  
Tel. 03-5573-4183

●地域創造セミナーに関する問い合わせ  
芸術環境部 今野  
Tel. 03-5573-4066

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### 地域通信

#### ●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

#### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

#### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

#### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 和田・今野

#### ●2025年5月号情報締切

2025年3月17日(月)

#### ●2025年5月号掲載対象情報

2025年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

#### 北海道・東北

##### ●北海道釧路市

釧路市立美術館  
〒085-0836 釧路市幣舞町4-28  
Tel. 0154-42-6116 武東祥子  
<https://k-bijutsukan.net/>

##### かわたれ時→たそがれ時

少しずつ明るくなる明け方から、闇に包まれる前の一時の夕暮れまでの空の表現に注目したコレクション展。時間帯によって刻々と表情を変える空や街、自然について、それぞれの作品の雲の描き方、空の色合い、影の表現方法など、作家ごとにまるで違う表情にみえる空を、釧路地域の風景を中心に紹介している。

[日程] 2月22日～3月30日

[会場] 釧路市立美術館

##### ●岩手県宮古市

宮古市民文化会館  
〒027-0023 宮古市磯鶏沖2-22  
Tel. 0193-63-2511 大原愛  
<https://iwate-arts-miyako.jp>

##### 三陸AIR/AIR・ワンコインシリーズ 長谷川暢「宮古風にノル、あれ。」

学校でのワークショップや地域の文化体験、交流などを行うアーティスト・イン・レジデンスプログラム「三陸AIR」の滞在成果公演。今回は、6月に10日間ほど滞在したダンサー・和太鼓奏者の長谷川暢が、宮古水産高校太鼓部や郷土芸能グループを訪れて体験したことから着想した“現代の郷土芸能のような何か”をモチーフに、パフォーマンスとして披露する。

[日程] 3月16日

[会場] 宮古市民文化会館



津軽石さん保存会のワークショップ

##### ●秋田県横手市

「みんなのキンビ」プロジェクト  
実行委員会  
(事務局:秋田県立近代美術館)  
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46

Tel. 0182-33-8855 北島珠水

<https://akita-kinbi.jp/>

##### 「みんなのキンビ」プロジェクト 企画 笑う!はひふへほ展

秋田県立近代美術館が中心となり、さまざまな機関や市民と連携し、秋田に暮らす誰もがアートを楽しみ、アートを通じてつながる地域づくりを目指す「みんなのキンビ」プロジェクト。昨年度に続き第2弾となる本展では、「笑い」をテーマに、多様な感覚で楽しめる16コンテンツの作品を展示する。さまざまな理由で美術館への来館を控えている人に、アートへの参加を促す試み。

[日程] 2月8日～3月9日

[会場] 秋田県立近代美術館

##### ●山形県東根市

東根市公益文化施設  
まなびあテラス  
〒999-3730 東根市中央南1-7-3

Tel. 0237-53-0229 寒河江梢

<https://www.manabiaterace.jp/>

##### 遠藤綾 個展「ラインナップ」

山形市の社会福祉法人・ほのぼの会「わたしの会社」に所属するアーティスト・遠藤綾の個展。「AYA文字」と呼ばれる特徴的な文字作品をはじめ、イラストや貼り絵、刺繍などさまざまな作品が、アトリエで過ごす彼女を取材した写真とテキストによるドキュメントとともに展示される。会期中には、遠藤がその場でイラストを描き、来館者に手渡しするライブ制作イベントも併せて開催。

[日程] 1月25日～3月9日

[会場] まなびあテラス 東根市美術館

##### ●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス  
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6

Tel. 0246-22-8111 村山晴香

<https://iwaki-alios.jp/>

##### リージョナル・シアター2024

いわきアリオス演劇部+

##### 『DOLL』

市民とプロの演出家がさまざまな演劇を創作する「いわきアリオス演劇部+(プラス)」。2024年度は昨年度に続いてtheater apartment complex libido:の岩澤哲野が講師・演出を担当。高校生から60歳代まで幅広い年代の市民参加者(出演者10人、舞台・音響・照明・運営スタッフ14人)が、如月小春(1956～2000)が1983年に発表した不朽の名作『DOLL』に挑む。

[日程] 3月8日、9日

[会場] いわき芸術文化交流館アリオス



稽古の様子(撮影:白土亮次)

##### ●福島県白河市

白河文化交流館コミネス  
〒961-0075 白河市会津町1-17  
Tel. 0248-23-5300 齋藤由美子  
<http://cominess.jp/>

##### 第10回ハイスクール劇王

～高校生短編演劇競技大会～

日本劇作家協会東海支部発祥の短編演劇大会「劇王」の高校生版。劇作・演出・役者・舞台技術をすべて高校生が担うルールで2014年から開催。上演時間20分以内のオリジナル作品、出演者3名以内などの制限がある中で作品を創作・上演し、審査員と観客の投票で優勝したチームが「劇王」となる。

今回は戯曲審査を通過した4団体(5作品)が参加。優勝チームには市の伝統工芸品・白河だるまが「巨大劇王ダルマ」として贈呈される。

[日程] 3月23日

[会場] 白河文化交流館コミネス

### 関東

#### ●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館

〒309-1611 笠間市笠間2345

(笠間芸術の森公園内)

Tel. 0296-70-0011 飯田将吾

<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

#### 新収蔵品展

令和6年度に新たに収蔵した36作家、100件の作品を紹介する収蔵品展。鉄釉陶器の重要無形文化財保持者・原清の鉄釉馬文大壺をはじめ、茨城や全国で活躍する陶芸作家の多種多様な作品を展示。茨城県出身で陶芸界初の文化勲章受章者の板谷波山や、笠間で活躍した人間国宝の松井康成の作品も紹介する。

[日程] 3月1日～10月26日

[会場] 茨城県陶芸美術館

#### ●群馬県前橋市

アーツ前橋

〒371-0022 前橋市千代田町

5-1-16

Tel. 027-230-1144 辻瑞生

<https://www.artsmaebashi.jp>

#### アーツ前橋企画展

##### 「はじまりの感覚」

アーツ前橋のラーニングプログラムやコミッションワーク、作品展示で交流のある3名のアーティスト(三輪途道、山極満博、山城大督)の協力を得て、それぞれが考える「鑑賞体験」や「知覚」をテーマに企画した展覧会。「みる」だけでなく、「きく」「さわる」「あるく」「すわる」といった多様な身体感覚を通じて、鑑賞の可能性を探る。

[日程] 1月25日～3月23日

[会場] アーツ前橋

#### ●さいたま市

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区

常盤9-30-1

Tel. 048-824-0111 吉岡知子

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

#### メキシコへのまなざし

1950年代、その鮮やかな色彩、古代文明や革命の歴史と結びついた力強い造形表現で日本に大きな衝撃を与えたメキシコ美術。影響を受けた美術家の中から、福沢一郎や岡本太郎、利根山光人、芥川(間所)紗織、河原温の足跡をたどり、メキシコをどのようにとらえたのかを検証する。また、メキシコ美術の普及に努めた初代館長の美術評論家・本間正義(1916～2001)の仕事とともに、美術館のメキシコ美術コレクションとその形成の歩みを紹介する。

[日程] 2月1日～5月11日

[会場] 埼玉県立近代美術館

#### ●千葉県佐倉市

佐倉市立美術館

〒285-0023 佐倉市新町210

Tel. 043-485-7851 本橋浩介

<https://www.city.sakura.lg.jp/section/museum/>

#### 開館30周年記念「生誕150年／没後70年 香取秀真の眼」

明治末から昭和初期にかけて金属工芸作家として活動し、金工史研究者としても造詣の深い香取秀真の回顧展。日本を含む東洋の古典作品の造形を積極的に現代に応用し、新しい国風文化を生み出すことこそが日本の文化の力と考えていた秀真の作品と、彼が参考とした作品を併置することにより、現代にも通じる古典の源流を探る。

[日程] 1月31日～3月23日

[会場] 佐倉市立美術館

#### ●千葉県市原市

市原湖畔美術館

〒290-0554 市原市不入75-1

Tel. 0436-98-1525 三浦万奈

<https://lsm-ichihara.jp/>

#### 第12回市原湖畔美術館子ども絵画展「きみにとって うつくしいって なにかなあ？」

「うつくしいってなに？」をテーマに、市原市内の子どもたちから募集した絵の展示会。約300点の作品はゲストアーティストである絵本作家の荒井良二自らが展示構成し、自身の絵や言葉とともに展示するほか、詩人・最果タヒとの共著『うつくしいってなに？』の原画も同時に公開。絵と言葉それぞれからイメージを膨らませ、自分の考える「うつくしい」とは何かを考えさせられる空間となっている。

[日程] 2月1日～3月2日

[会場] 市原湖畔美術館

#### ●東京都墨田区

すみだ北斎美術館

〒130-0014 墨田区亀沢2-7-2

Tel. 03-6658-8936 奥田敦子

<https://hokusai-museum.jp/>

#### 北斎×プロデューサーズ 蔦屋重三郎から現代まで

商業的な出版物である浮世絵において、流行を見極め、企画立案、絵師の起用や彫師・摺師の指揮まで担う板元。いわば総合プロデューサーにあたる重要な存在である板元たちが北斎をどのようにプロデュースし、どのような作品を世に生み出したのかをたどる展覧会。大河ドラマで話題の蔦屋重三郎をはじめとした江戸の板元たちと、北斎からインスパイアされた現代アーティストの作品を紹介する。

[日程] 3月18日～5月25日

[会場] すみだ北斎美術館

#### ●東京都品川区

品川区立環境学習交流施設

エコルとごし

〒142-0042 品川区豊町2-1-30

Tel. 03-6451-3411 石橋・丹羽

<https://ecoru-togoshi.jp>

#### 高須賀活良作品展

##### 「草木の恵みと布のものがたり」

“モノづくりの始まりは「土」からである”というコンセプトのもと、布と人の関係性をテーマに活動を行う高須賀活良の作品を通して、布の成り立ちや環境について考える作品展。観覧は無料で、事前ワークショップで制作された木の皮の繊維を利用した参加型作品の展示が見どころの一つとなっている。

[日程] 2月26日～3月23日

[会場] 品川区立環境学習交流施設エコルとごし

#### ●神奈川県小田原市

小田原三の丸ホール

〒250-0012 小田原市本町1-

7-50

Tel. 0465-20-4152 森田・杉山・中野

<https://ooo-hall.jp/>

#### 劇場留学～『モモ』と時間の旅～モモ

「劇場留学」は昨年度の夏、小学生・訪問外国人を対象に小田原三の丸ホールで初めて開催した市民参加型演劇創造事業。第2弾は、より幅広い年齢層を対象に、オーディションで選ばれた小学生から80代の26人が出演。劇場のプロフェッショナルと共に、ミハエル・エンデの原作を元にした小田原オリジナルの舞台版『モモ』を上演する。

[日程] 3月28日～30日

[会場] 小田原三の丸ホール



2023年8月「劇場留学～お芝居をつくる7日間～」の様相(撮影:五十嵐写真館)

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### ●神奈川県座間市、海老名市

座間市地域福祉課

〒252-8566 座間市緑ヶ丘1-1-1

Tel. 046-252-8247

aruhi.project@gmail.com

https://littlebarrel.net/post/771710492938059776/

#### アートプロジェクト「ある日」

孤独・孤立をアートの視点から考えるプロジェクト。内閣府の地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業を活用し、さまざまな問題を抱える人たちに寄り添ってきた座間市・大和市・海老名市・綾瀬市の4市の共催で実施する。アーティストの協力の下、相談支援の利用者や支援者がアーティストと共に過ごした「ある日」の記憶とそこから生まれた表現を中心に構成された展覧会のほか、有識者を招いた2部制のシンポジウムなどが開催される。

[日程・会場] 2月21日～3月2日：座間市役所7階展望フロアほか / 2月21日～28日：海老名中央公園・ピナウオーク

### ●神奈川県葉山町

神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1

Tel. 046-875-2800 高嶋・引地

https://www.moma.pref.kanagawa.jp/hayama/

#### 栗林隆 Roots

「境界」をテーマに、ドローイングやインスタレーション、映像などの多様なメディアを用いて身体的体験を観客に促す作品を国内外で発表している栗林隆の大規模個展。海と山に囲まれた葉山の自然の中で、普段展覧会では使わない空間を活用し、新作のインスタレーションだけでなく、未発表のドローイングや映像作品なども展示することで、過去と未来の「境界=今」が楽しめる。

[日程]2024年12月14日～3月2日

[会場]神奈川県立近代美術館 葉山

#### 北陸・中部

### ●富山県砺波市

オリジナルミュージカル「森はうたう」実行委員会

〒939-1382 砺波市花園町1-32 (砺波市文化会館内)

Tel. 0763-33-5515 湯尾雅紀

https://tonamibunka.or.jp/bunka/

#### 新砺波市誕生20周年記念 オリジナルミュージカル

##### 『森はうたう』

2005年4月に発足した「となみミュージカルキッズ」が、支援母体「となみミュージカルキッズを応援する会」と砺波市文化会館、市民とで協働してつくるオリジナルミュージカル。市民スタッフが脚本・作曲・振付を担当、保護者を中心とした運営スタッフが大道具・小道具・衣装をすべて自前で製作し、2020年にコロナ禍の影響で公演中止となった作品を満を持して上演する。

[日程] 3月1日、2日

[会場] 砺波市文化会館

### ●福井県福井市

福井県立美術館

〒910-0017 福井市文京3-16-1

Tel. 0776-25-0452 西川奈津美

https://fukui-kenbi.pref.fukui.lg.jp/

#### いざ、冒険へ！めくるめく物語の 世界～ルネサンスから絵本まで

絵画の中の「物語」に注目したコレクション展。神話・歴史・文学などの物語を題材に制作された作品や、作家の空想によって生まれた作品などを、版画作品を中心にその背景とともに一堂に紹介する。また、絵本の原画の展示も行い、実際の絵本の内容についても併せて展示・紹介している。

[日程] 3月4日～3月30日

[会場] 福井県立美術館

### ●長野県長野市

長野県立美術館

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4

Tel. 026-232-0052 霜田英子

https://nagano.art.museum/

#### 信州から考える

##### 絵画表現の50年

県ゆかりの作家18名の作品63点により、信州から描く戦後絵画史の一樣相を振り返る展覧会。特に、絵画の再評価時代である1970年後半から95年までの章では、絵画がどのような要因により復権したのか、その変遷について紹介する。大画面の抽象画がメインに展示され、大画面の絵画に包まれる没入体験も楽しめる。

[日程] 2月1日～4月6日

[会場] 長野県立美術館

#### 近畿

### ●三重県津市

三重県文化会館

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 小林由梨佳

https://www.center-mie.or.jp/bunka/

#### 松井周の標本室×三重県文化 会館「なりかわり標本会議」

劇作家・松井周のスタディ・グループ「松井周の標本室」から生まれたカードゲーム「なりかわり標本会議」(原題：標本会議)。さまざまなテーマについてカードに書かれた役割になって会議をすることで、誰でも演劇ができる。各地でワークショップとして実施しているが、今回はファシリテーターの手法を学んだメンバーが出演し、観客参加型の舞台と



試演会観客投票の様子 撮影：松原豊

して上演。観客にも役割カードを配り、観客自身もその役割に“なりかわり”ながら観ることができる。

[日程] 3月1日、2日

[会場] 三重県文化会館

### ●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2

Tel. 06-6864-5000 本城聖美

https://www.toyonaka-hall.jp

#### こどもアートの日2025

##### 「とよなかアーツパーラー」

さまざまな芸術体験が1日中楽しめる「こどもアートの日」。今年は豊中市立文化芸術センター、市民ギャラリー、ローズ文化ホールの3カ所で開催。事前ワークショップを受講した小学生などと鬼太鼓座がコラボする和太鼓公演のほか、箏の演奏会やパントマイム、カリンバを自分でつくるワークショップ、新作を製作中の展覧会とアコーディオンとダンスのパフォーマンクスなど、沢山のアートにふれることができる。[日程・会場] 3月22日：豊中市立文化芸術センター、3月23日：豊中市立ローズ文化ホール、3月20日～30日：豊中市立市民ギャラリー

### ●大阪府茨木市

茨木市文化・子育て複合施設おにクル

〒567-0888 茨木市駅前3-9-45

Tel. 072-631-0296 堀越芽生子

https://www.onikuru.jp/

#### 鈴木優人 チェンバロお披露目 コンサート

茨木市に1992年製作の二段鍵盤盤フレンチチェンバロが寄贈されたことを受けて開催するお披露目コンサート。演奏は、ピリオド楽器(古楽器)を用いて世界中で活躍する鈴木優人が務め、チェンバロの歴史や楽器の仕組み

み、その魅力など、楽しい話を交えてお届けする。チェンパロは今後おにクルに保管され、春よりホール利用者を対象に貸し出しを行う予定。

[日程] 3月9日

[会場] 茨木市文化・子育て複合施設おにクル

### ●神戸市

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

〒651-0082 神戸市中央区小野浜町1-4

Tel. 078-325-2235 大泉愛子

<https://kiito.jp>

**災間スタディーズ：震災30年目の分有をさぐる「30年目の手記」展示**

阪神・淡路大震災から30年目を迎える2025年に向け、災間の社会を生き抜く術として、災厄の経験を分有するための表現の可能性を探るため、トークセッションやワークショップ、震災手記を募集するリサーチプロジェクトなどを展開してきた。今回は、手記から抜き出された「ことば」にふれ、語りとの出会いをつくり出す構成で、集まったエピソード186篇の展示を行う。

[日程] 1月17日～3月30日

[会場] デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

## 中国・四国

### ●鳥取県倉吉市

鳥取県立美術館

〒682-0816 倉吉市駄経寺町2-3-12

Tel. 0858-24-5442 尾崎信一郎

<https://tottori-moa.jp/>

**開館記念展「アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術―若冲からウォーホル、リヒターへ―」**

県立としてはほぼ最後発で、3月に待望のオープンを迎える鳥取県立美術館の開館記念展。江戸絵画から現代美術まで、国内

外の100名以上の作家の約180点の作品により、何が「リアル」なのか、表現方法を探る作家の挑戦の軌跡をたどる。鳥取を代表する作家における写実表現の中から、鳥取砂丘を舞台に制作された辻晋堂によるベネツィア・ビエンナーレ出品作も併せて展示される。

[日程] 3月30日～6月15日

[会場] 鳥取県立美術館

### ●鳥取県境港市

境港市民交流センター みなとテラス

〒684-0033 境港市上道町

3000

Tel. 0859-46-0471 石田

<https://minato-terrace.jp>

### トトト2025

今年で3回目となるアート×音楽×市民+フードをテーマとした全館イベント。地元で活動する作家や市民によるフードとハンドメイド雑貨のマルシェや、飲食とともに音楽を楽しむステージプログラムが開催されるほか、演奏の音色で映像が移り変わるカシオのミュージックタペストリーを搭載したストリートピアノも設置し、市民交流センターとして多世代が集い楽しめるお祭りを開く。

[日程] 3月20日

[会場] 境港市民交流センターみなとテラス

### ●広島県東広島市

東広島市立美術館

〒739-0015 東広島市西条栄町9-1

Tel. 082-430-7117 大山

<https://hhmoa.jp/>

**東広島市制施行50周年記念「Recollection⇄Vision 東広島**

**島の過去・現在・未来」**国内外で活躍する作家・宇佐美雅浩と「Manda-la in 東広島」プロジェクトを実施。宇佐美のリサーチを元に、東広島の特徴的

景色である赤屋根の風景に加え、酒づくりや原爆被災者救護の歴史なども踏まえ、地域住民を中心に約300人が参加し、東広島ならではの作品をつくり上げる。制作過程もドキュメント映像として紹介し、戦時中の記憶を伝える。

[日程] 2月7日～3月23日

[会場] 東広島市立美術館

### ●山口県下関市

下関市立美術館

〒752-0986 下関市長府黒門東町1-1

Tel. 083-245-4131 岡本・渡邊・片岡

<https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art/>

**特別展「グライズデール・アーツと下関——ライフパーク/人生という芸術の肖像」**

アートによるさまざまな社会問題への働きかけを行う英国の現代アート団体「グライズデール・アーツ」。下関市出身の写真家で、同団体メンバーの藤田需子が橋渡し役となり、2017年から市内菊川町でアートプロジェクトを実施。今回はこれまでの活動の軌跡を紹介しながら、藤田の公開制作等も実施。地域連携企画では大学生との作品コラボ、展覧会の作品づくりを市民が手伝う「美術館で夜活!」などが行われる。

[日程] 2月15日～3月23日

[会場] 下関市立美術館

### ●香川県高松市

高松市美術館

〒760-0027 高松市紺屋町10-4

Tel. 087-823-1711 尾形絵里子

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/>

**高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.12**

**「わたしのりんかく」**

独自性のある優れた作家を紹介するシリーズ。今回のテーマは

「輪郭」。自分自身の輪郭は他とを隔てるものにもなりえるが、それらは環境によって変化し、曖昧な一面もある。6組の作家の作品を通して、自分と外の世界を改めて見つめ直し、刹那的な輪郭の儚さや美しさ、力強さについて考える。関連企画ではライブパフォーマンスや参加型プログラムも実施。

[日程] 2月1日～3月16日

[会場] 高松市美術館

### ●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

〒763-0022 丸亀市浜町80-1

Tel. 0877-24-7755 古野華奈子

<https://www.mimoca.org/>

**猪熊弦一郎展「画業の礎―美校入学から渡仏まで」**

猪熊弦一郎が晩年の明るく伸びやかな画風にたどり着くまでの軌跡として、20～30代の頃の創作活動を紐解く企画展。大正後期から昭和初期にかけての困難な時代に、「美とはなにか」を問い続け向き合ってきた猪熊の奮闘について、約2万点を超えるコレクションの中から、初出品となる歴史資料としても貴重な当時の様子がわかる版画作品などを厳選し、その軌跡を紹介する。

[日程] 1月26日～3月30日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

### ●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007 松山市堀之内

Tel. 089-932-0010 杉山・宇野

<https://ehime-art.jp/>

**山川コレクション収蔵記念 PHOTOGRAPHY 写真のこれまで/これから**

令和5年度に愛媛県内の実業家・山川浩一郎氏より寄贈を受けた写真コレクション約120点を中心に紹介する展覧会。近代写真の先駆けとなったウジェー

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ス・アジェ、奈良原一高、荒木経惟など写真史を語る上で欠かせない作品が多く含まれており、写真芸術の歩みをたどることができる。また愛媛県ゆかりの作家の作品をコレクションに加えて展示することにより、愛媛における写真芸術のこれまでとこれからを見据える機会ともなる。

[日程] 1月31日～3月20日  
[会場] 愛媛県美術館

### ●愛媛県新居浜市

新居浜市美術館  
〒792-0812 新居浜市坂井町2-8-1  
Tel. 0897-65-3580 高橋美瑛  
<https://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/bijutu/>

#### 新居浜の美術コレクション展示 2024「色と出会う、美術と出会う」

誰にとっても身近なテーマである「色」について、7つの視点から紹介するコレクション展。なかでも色と絵具の関係について紹介しているコーナーでは、実際に日本画を制作する際に使用されている岩絵具について、その元となる石や鉱石も併せて展示しており、色というものがどのように生まれどこから来ているのか、今までとは違う視点で楽しめる内容となっている。

[日程] 2月1日～3月16日  
[会場] 新居浜市美術館

### ●高知県高知市

高知県立美術館  
〒781-8123 高知市高須353-2  
Tel. 088-866-8000 塚本麻莉  
<https://moak.jp/>

#### 浜田浄 めぐる 1975—

高知県黒潮町出身で、平面作品の制作を軸に据えながらも、刷る、塗る、彫る、削る、組むといった行為の反復により、時間の蓄積を感じさせる独自の抽象表

現を開拓し続ける美術家・浜田浄の過去最大規模となる個展。作風の転機にあたる1975年から最新作までのおよそ60点を通して、浜田の制作が深化する過程を共に「めぐる」かのような体験ができる。

[日程] 2月8日～4月13日  
[会場] 高知県立美術館

### 九州・沖縄

#### ●福岡市

福岡アジア美術館  
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8F  
Tel. 092-263-1100 李昭賢  
<https://faam.city.fukuoka.lg.jp>

#### あじびレジデンスの部屋3 「都市を映す」

開館時よりアジアからアーティストを受け入れ、滞在制作などを通じて市民とさまざまな美術交流を図ってきた福岡アジア美術館では、そうした取り組みとこれまでの滞在アーティストの活躍を紹介する「あじびレジデンスの部屋」を2019年度より開催。今年度のシリーズ第3弾は、所蔵品のうち、韓国、香港、台湾出身のアーティスト3組が滞在中に天神地下街を行き来する人々や川端商店街の日常などを描いた作品を展示する。

[日程] 2024年12月19日～4月8日  
[会場] 福岡アジア美術館

#### ●福岡県久留米市

久留米シティプラザ  
〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1  
Tel. 0942-36-3084 宮崎麻子  
<https://kurumecityplaza.jp>

#### 久留米シティプラザ写真展示プロジェクト「プラザあちこち写真館」vol.1 写真家・浅田政志×久留米市「わたしとくるめ」

写真家と市民がつくり上げる写真展示プロジェクトが新たにス

タート。第1弾は浅田政志を迎え、久留米にまつわる10のテーマに沿って市民から集めたエピソードをもとに、公募の被写体エキストラと共に久留米市内で写真を撮影。館内のオープンスペースに、写真とエピソードをセットで展示する。1枚の写真に思いを込める浅田の姿勢と、久留米に残るさまざまな思い出を誰もが気軽に体験できる。

[日程] 3月1日～30日  
[会場] 久留米シティプラザ



「ラーメン」をテーマにした1枚

#### ●熊本市

熊本県立劇場  
〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1  
Tel. 096-363-2233 中野萌  
<https://www.kengeki.or.jp/>

#### けんげきキッズプログラム「行くぜ! 劇場探検隊〜舞台の裏は、たからじま〜」

小学3～6年生とその保護者を対象とした演劇仕立ての劇場ボックスステージツアー。熊本市を拠点に活躍する池田美樹(劇団きらら)を構成・演出に迎え、第1部では探検隊に扮した熊本の演劇人と共に調光室・音響ブースといった劇場の裏側をチームに分かれて探検し、第2部では、大迫旭洋(不思議少年)の作・演出による短編劇を鑑賞する。

[日程] 3月2日  
[会場] 熊本県立劇場

#### ●宮崎県宮崎市

(公財)宮崎県立芸術劇場  
〒880-8557 宮崎市船塚3-210  
Tel. 0985-28-3208 工藤治彦

<https://miyazaki-ac.jp/>

#### 「新 かぼちゃといもがら物語」番外編「きつとアンティゴネ」

宮崎を舞台に、宮崎の“今を生きる”人々の営みから、日本の今を見つめた物語を紡いできた「新 かぼちゃといもがら物語」シリーズ。今回は番外編として、オーディションにより選ばれた出演者らと共に、ギリシャ悲劇『アンティゴネ』を原作にした作品を創作・上演する。宮崎弁の台詞も織り交ぜながら、人間の普遍的な部分に迫る宮崎ならではの舞台作品をつくり上げる。

[日程] 3月8日、9日  
[会場] 高岡地区交流センター

### 講座・シンポジウムなど

#### 世界劇場会議国際フォーラム 2025 in ちりゅう

世界劇場会議国際フォーラムでは、世界各地でその普遍的な価値を発信する劇場・団体や日本国内の先進的な事例を紹介している。今回は、昨年に引き続き、「劇場100年時代は来るのかPart2～地域劇場が生き残るために～」と題し、地域に寄り添い、その特色を生かす劇場運営を考える。また、劇場の長寿命化にスポットを当て、舞台照明におけるLED導入課題や、長寿命化を目指した劇場建築の最新事例を紹介する。

[日程] 2月26日、27日  
[会場] パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)  
[問い合わせ] NPO法人世界劇場会議名古屋(世界劇場会議国際フォーラム2025実行委員会)  
Tel. 052-253-7556  
[itcn@itc-nagoya.com](mailto:itcn@itc-nagoya.com)  
<http://itc-nagoya.com>

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 富山県富山市 富山県美術館 「まるごとTADこども 美術館 マジカル手 ヅクリツアー」



上：ワークショップ「新聞紙とガムテープで世界6大陸をつくろう」 撮影：柳原良平  
下：まるごとTADこども美術館+関口光太郎「世界さん」

#### ●まるごとTADこども美術館 マジカル手ヅクリツアー

旧館で開館年の1981年から続いた学校連携事業「教育企画展」を継承し、2022年に始まった、複数の子ども向け企画を館内で同時展開するプログラム。第3回の今回はシリーズ初の試みとして新聞紙×ガムテープアーティストの関口光太郎を招聘し、作家との協働によるワークショップやアトリエ企画、成果展などを開催。また、展示を巡るためのパスポートや、幅広い世代や未就学児向けのツアー、アニメーション映画上映なども実施。

【会期】2024年10月12日～25年3月4日

【主催・会場】富山県美術館

#### ●富山県美術館 (TAD)

国内有数の近代美術の収蔵品で知られる富山県立近代美術館(1981年開館)を改称・新築移転し、2017年、富山駅北側の富岩運河環水公園に開館。前川國男監修の重厚な旧館の建物とは対照的な、公園と立山連峰の眺めを取り込む開放的な建築は内藤廣によるもの。「アート&デザイン」を謳う美術館として、充実した近代美術や椅子、ポスターの作品群を常設展示するほか、地元出身の評論家・瀧口修造の旧蔵品も並ぶ。佐藤卓のデザインした屋上庭園「オノマトベの屋上」や開放的なアトリエなどを通し、気軽に遊びに来られる交流型の美術館を目指す。2024年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞。

“交流型の美術館”として注目される富山県美術館(2017年開館)が、館全体で子どもが楽しめる企画を展開する「まるごとTADこども美術館 マジカル手ヅクリツアー」(以下、「まるごと」)に取り組んでいる。前身の富山県立近代美術館時代から力を入れる教育普及事業を更新するかたちで2022年に始まった活動で、今回は新聞紙×ガムテープアーティストの関口光太郎とのコラボによるワークショップやアトリエの創作企画、その成果展など複数のプログラムを展開している。1月26日、成果展の巨大作品を公開制作中の同館を取材した。

「旅行」をテーマとした今回の「まるごと」では、約5カ月にわたる会期のなか、建物3階のアトリエで新聞紙とガムテープを使う関口の手法を用いる造形遊びを実施してきた。来場者が思い思いの「世界のかたち」を手づくりする「オープンラボ」(会期中は常時開催し、取材時まで約2,500人が参加)や、関口が小中学生30人とパンダやキリンなど各大陸を表す巨大像を制作するワークショップ「新聞紙とガムテープで世界6大陸をつくろう」だ。そして成果展として、関口がこうして集まった大量のオブジェを、空を飛ぶ巨大な人物「世界さん」の背中に乗せ、世界を「一人の人間」に見立てるインスタレーションを公開制作した。大勢が手づくりしたモノたちは、造形のレベルこそそれぞれだが、共通したユルさとユーモアをもつ。関口は種々雑多なそれらを単なる混沌に陥らせず、見飽きない「心地よいカオス」にまとめ上げていた。

身近な素材を使うことで「アートを生活の一部に感じてほしい」と話す関口は、手づくりに強いこだわりをもつ。近年、デジタル化や図工の授業への商業キットの導入など、ものづくりを巡る子どもの環境は変化している。そうしたなか、「キットは与えられた範囲の造形だが、社会に出れば枠はない。柔軟な発想のためには身体全体で手探りするような答えのない教育が大切」と、美術館でじっくり造形と向き合う機会を提供する重要性を語った。

同館は近美時代の1981年より、学校と連携

して生徒の作品を展示する「教育企画展」を毎年開催してきた実績をもつ。展示室に子どもの作品を飾る試みは珍しく、計12回で県内の全小中学校と特別支援学校が参加した「わたしたちの壁画」(1981～92)など、教育普及活動としての評価は高かった。「ただ、連携事業は学校の負担も大きく、徐々に出品校が減っていた。また、聞き取りをした先生方からは、働き方改革の影響もあり、展示のために作品を作る時間がないとの声もあった」と、「まるごと」の担当学芸員・田辺友美さんは言う。そこで生まれたのが、連携ではなく、館全体に子どもが楽しめる入り口を偏在させる今回の企画だった。

近美時代からの普及担当・麻生恵子さんは、「学校連携も子どもに来館してもらうことが出発点。旧美術館の建築は重厚だったが、新美術館では来やすさにこだわり、建物の一番いい場所に開放的なアトリエを設置して常時創作の機会を提供できるようになった。今では“学校”という単位にこだわる必要がなくなったとらえている。以前の連携事業では担当教員のレベルが直に展示に反映されるため、一部の先生からは参加しづらいとの声もあった。それならふらっとアトリエに来てもらい、子どもも大人も短時間で造形体験してもらおうほうが時代に合っている」と、この変化をポジティブにとらえる。成果展に集まった膨大なオブジェは、こうしたオープンな活動のひとつの成果だろう。

他方、「現在のプログラムは試験的で、最終的な姿は今も模索中」と田辺さん。同館では「まるごと」とは別に、「先生のための美術館ガイド」の制作や、学校団体向けに鑑賞プログラムを提案する「Find TAD!プロジェクト」などを通じ、先生や子どもに美術館の使い方を発信し続けている。後者には2023年度107校が参加。その数は近美時代より増えており、こうした経験がまた次のプログラムの形成につながるかもしれない。

近美時代の蓄積を生かしつつ、時代の変化のなかで美術館に求められる学びのかたちを手探りする。関口の語った「手」の力が、ここでも試されている。(アトライター・杉原環樹)